



たんぽぽだより

令和7年8月
印西市立子ども発達センター

No.6

スボンを履いてみよう！③④

スボンを履く前段階の取り掛かりや環境構成について前回お伝えしました。

今回は、「①着替えることを知らせる、②座って行う」の続き、「③スボンを見る④足を通す」についてお伝えします。スボンを見ることで、着替えに意識を向けられるようにします。意識を向けることで、これから行う動作を促すだけでなく、自分の身体を知ることにも繋がります。お子さんのできるところを伸ばしながら、楽しくスボンを履いてみましょう。

③スボンを見せます

お子さんを膝の上、イスや台に座らせたらスボンを見せ、「スボン履くよ」と伝えます。この時にお子さんがスボンを見ているか、視線を確認します。スボンを見ていない時は、お子さんの視線の中にスボンを入れてみて下さい。

〈ポイント〉

- ・しつこく見せると嫌な活動になりますので、“必ず見せなければ！”と介助者が必死にならないようにします。介助者が必死になると、なぜか反する行動になる場合があります。私たちも強制されると抵抗したくなりますよね。目の前でひらひらと動かすと、“なんだろ～”と見てくれることがあります。楽しく着替えられる工夫ができると良いですね。
- ・周りの玩具があったり、テレビが付いていると着替えに集中できません。お子さんが集中できるように周りの環境も整えると良いです。

④足を通します

始めは介助者がスボンの履き口を開きます。上げてほしい方の足を軽くタッチして「足あげて～」と声をかけて動作を促します。足を上げない時は、もみもみと刺激を与えて視線を足に向けてから、同様に声をかけて足を通していきましょう。

〈ポイント〉

- ・楽しめる工夫が大切です。「足入れて～ いないいない ばあ」など、足をスボンから出す動作に、言葉を添えて楽しく行うと意識が向きやすいです。電車が好きなお子さんは「右足電車が通ります。かたんごとん…」など遊びながら行うこともできます。スボンと足の動きを見て着替えることで、着替えに興味をもち、自分でやろうとする気持ちが芽生えます。
- ・ひとつ動作をするたびに、笑顔で目を合わせ「できた」ことを確認しながら行うことも、自分でやりたい気持ちを育てます。



「見る」がポイントです

いないいない
ばあっ！

足入れて～

